

東京支部 会員アンケート

2022年 結果サマリー



2022年10月 東京支部会員部

はじめに

【調査の目的】

東京支部では、会員の皆さまに提供している支援やサービスの現況に対するご意見を伺い、会員支援サービスの今後の改善・発展の検討の参考とするため、下記の要領でインターネットによるアンケート調査を行った。

【調査の概要】

本調査は、2014年に本部会員基盤・組織基盤整備委員会が行った「会員支援サービスに関する調査」（以下、「2014調査」）以来のもの*であり、東京支部としては初の試みであった。

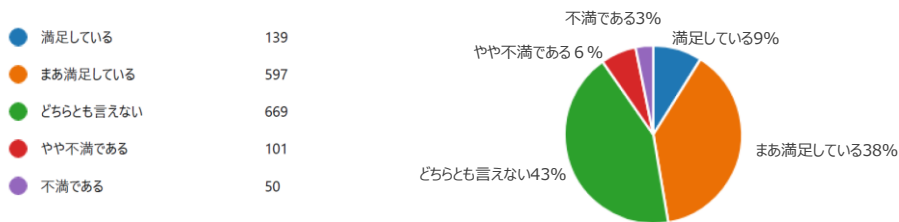
1. 調査対象者：2022年6月現在の東京支部会員（メールアドレス登録者） 6,563名
2. 調査方法：無記名インターネット調査、質問数25問
3. 調査期間：2022年5月20日～6月30日
4. 回答状況：1,556名が回答（回答率：24%、平均所要時間：11分27秒）

＜参考＞ 2014年に本部会員基盤・組織基盤整備委員会が行った「会員支援サービスに関する調査」
<https://www.counselor.or.jp/research/tabid/192/Default.aspx>

* 2018年と2019年に「JAICO会員の素顔」を探るためのアンケートが実施され、その結果が『JAICO産業カウンセリング』誌 2018年11月号と2019年12月号に掲載されていますが、回答者数が「2014年調査」や今回調査に比べると限定的であるのと、質問内容も異なるため、今回の比較対象とはしていません。

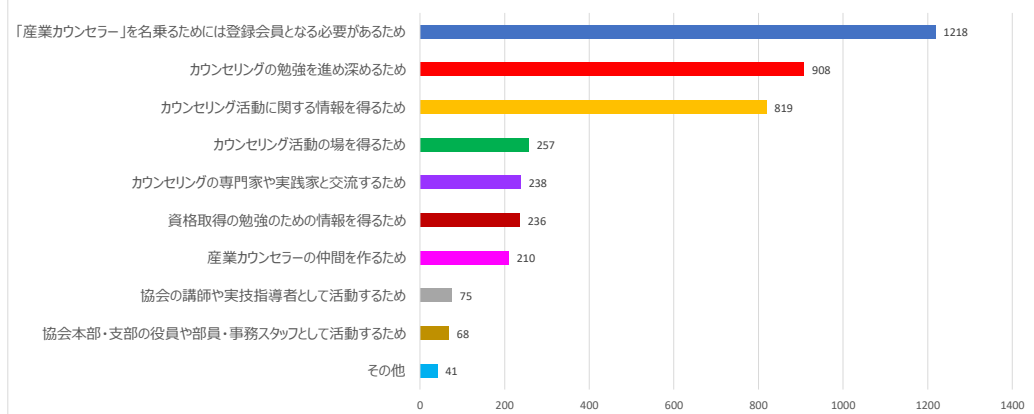
Q1：あなたの協会会員としての全般的な満足度はどの程度ですか？

- 全体の47%が、「満足」もしくは「まあ満足」と回答（2014調査：46%）、わずかに半数に満たない一方で、判断保留（どちらとも言えない）は、43%（2014調査:40%）
- 9%の方が、何らかの不満を感じている（「不満」+「やや不満」）。2014調査（13%）より減少。



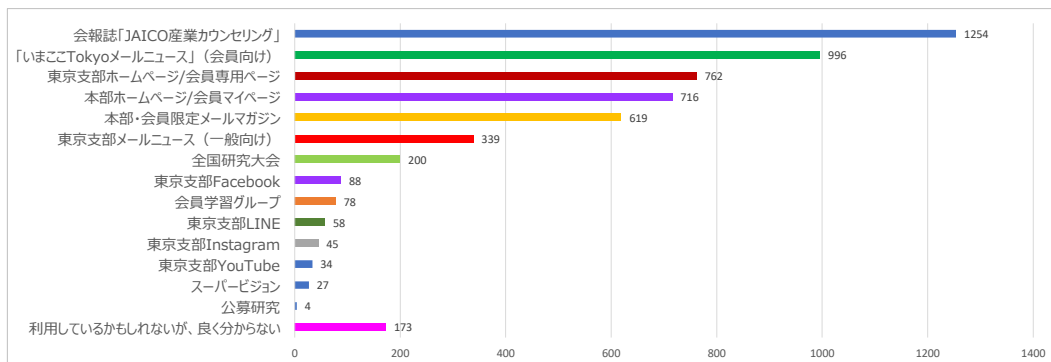
Q2:あなたが協会会員になっている目的（あるいは理由）をお聞かせください（複数回答可）。

- 『「産業カウンセラー」を名乗るため」という回答が、最多で1,218名/78%
「カウンセリングの勉強を進め深めるため」（908名/58%）、「カウンセリング活動に関する情報を得るため」（819名/53%）と続く。
 - 上位3位は、2014調査も同様だが、割合は、51%、25%、13%（ただし、今回は複数回答可。前回は1つだけ選択）。
 - 4位も前回と同じで、「カウンセリング活動の場を得るため」（257名/17%）。
- この回答が、低率に留まっているのは、会員になっても、多くの方がカウンセリング活動の場を得られていないことに起因している可能性がある。（Q16 参照）



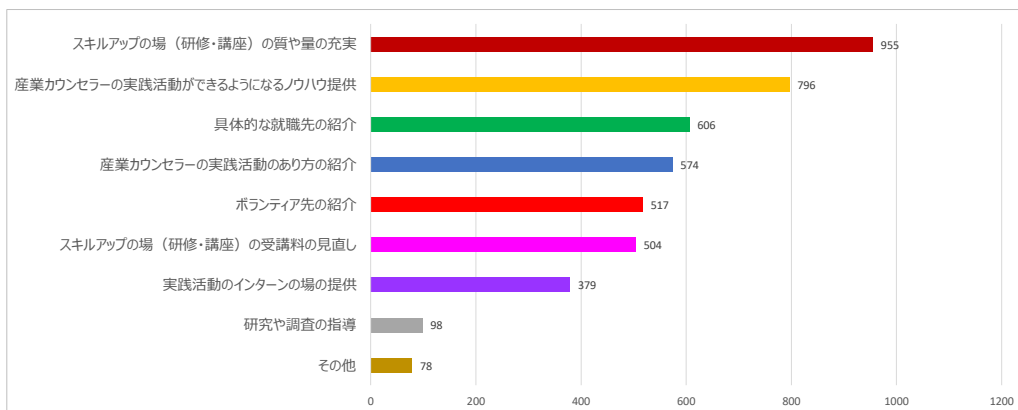
Q3：次の会員支援サービスの中で利用したことがあるものをお答えください（複数回答可）。

- 利用サービスの上位は、会報誌（1,254名/81%）、支部メールニュース（996名/64%）、支部ホームページ（762名/49%）、本部ホームページ（716名/46%）、本部メールマガジン（619名/40%）。2014調査では、会報誌（90%）、支部報（77%）、支部ホームページ（50%）、本部ホームページ（52%）、本部メールマガジン（25%）で、メールマガジンの利用率が大きく上がっている。
- SNS系のサービスは、現在の利用率は低いものの、一定数の利用はある。
- スーパービジョンの利用率は、27名/2%未満。2014調査の5%より、さらに低率となっている。
- 一方、「会員サービスを利用しているか分からない」という方が、173名/11%と一割を超えている。



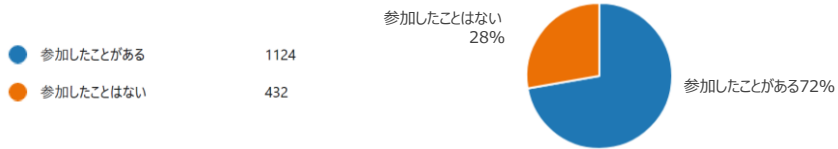
Q4：あなたが、東京支部に対して期待することをお答えください（複数回答可）。

- 支部への期待は、「スキルアップの場の質や量の充実」（955名/61%）、「産業カウンセラーの実践活動ができるようになるノウハウの提供」（796名/51%）、次いで「具体的な就職先の紹介」、「産業カウンセラーの実践活動のあり方の紹介」、「ボランティア先の紹介」の3つが、約500～600名/35%程度で並ぶ。
- 一方、504名/30%の方が、「スキルアップの場（研修・講座）の受講料の見直し」を選択している。



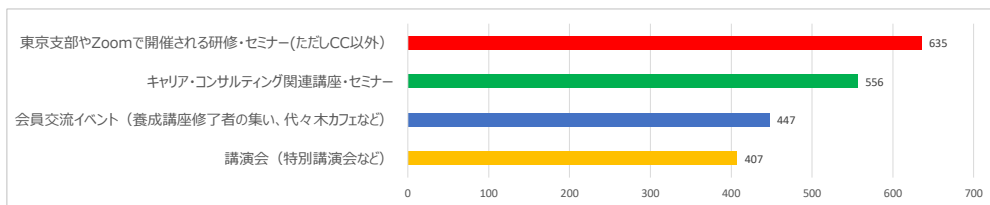
Q5：下記のような東京支部のイベントに参加したことがありますか？

- 3/4弱の方が支部イベントに参加されたことがある。



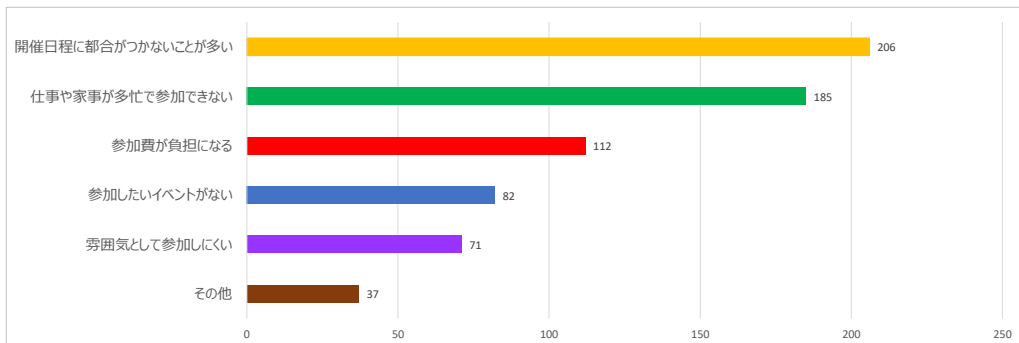
Q6：東京支部のイベントで参加したことがあるものをお答えください（複数回答可）。

- 「支部もしくはZoomでの研修・セミナー（CC関連除く）」に参加したことがある方は635名/41%、「CC関連セミナー」は556名/36%。「養成講座修了者の集いや代々木カフェなど」会員交流イベントは447名/29%、「講演会」は407名/26%。
- 逆にとらえると、半数以上の方が参加経験がある支部イベントはなく、イベント種類毎に見た場合、参加したことがある経験者は少数派とも言える。

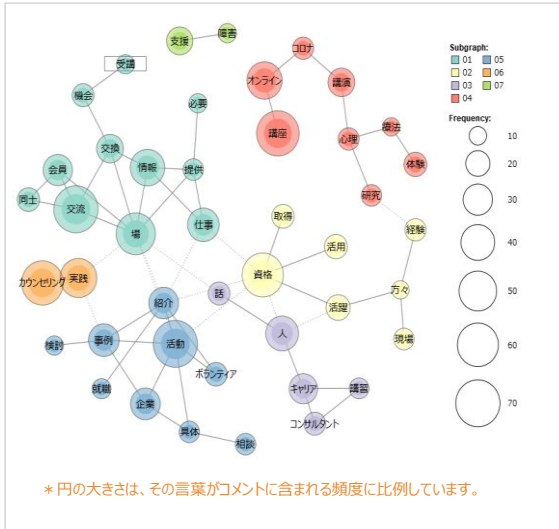


Q7：東京支部イベントに参加したことはない。と答えた方への質問です。 東京支部のイベントに参加していない理由をお答えください（複数回答可）。

- イベントに参加したことがない理由としては、「都合がつかない」「多忙」などスケジュール上のものが多い。



Q8：どのようなイベントであれば参加したいと思いますか？アイデアがあればお聞かせください。



- 一般的な頻出語は、「活動」「カウンセリング」「交流」「講座」「資格」「オンライン」。コメントでの特徴が伺えたのは、以下の通り。
- 「活動」では、資格を活かした活動の事例やボランティア活動の機会の紹介への要望があった。
- 「カウンセリング」については、カウンセリングの知識取得や演習といったものだけでなく、実際のカウンセリング場面を見たい等、事例紹介を求める声があった。
- 「交流」については、会員同士の交流を図るイベント、養成講座の同窓会、現役カウンセラーとの座談会、業種別の交流会といったイベントへの要望があった。
- 「資格」に関しては、（産業カウンセラー）資格の活し方や活用している方の事例を聞くイベントを求める声があった。
- 「講座」と「オンライン」は、オンラインイベントへの賛否両論があり、参加しやすいという意見がある一方で、対面のイベント開催への根強いニーズも伺えた。

Q9： 講座などで話を聞いてみたいテーマがあれば、その内容をお聞かせください。

- 会員の属性による回答の違いが伺えた。
- 協会会員歴が1年未満/ 1～2年の会員からは「事例」「活動」「資格」「傾聴」といったワードが挙がっていた。
- 3年以上の会員からは、「ハラスメント」「障害」「家族」といったワードが挙がり、会員歴が深まるにつれて、個別具体的なテーマを求める傾向が見られた。
- 女性からは、「女性」「社会」「活躍」といったワードが多く、女性の活躍やキャリアについての課題について聞いてみたいとのコメントが多かった。
- 男性からは、「ハラスメント」「組織」「最新」「研究」「実際」といったワードが多く、企業での活動に資するテーマを求めると推察される。

Q10：講座などで話を聞いてみたい講師の方がいたら、お名前をお聞かせください。

希望される講師名について、多くの回答をお寄せいただき有難うございました。

いただいた内容を関係部署と共有し、今後の企画の参考とさせていただきます。

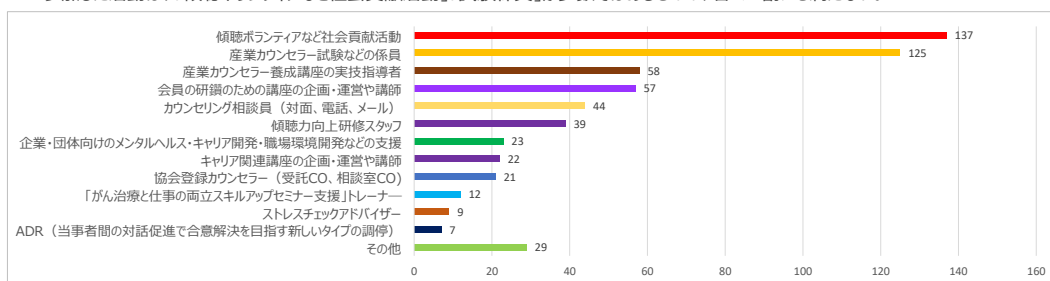
Q11：下記のような東京支部の活動に参加したことがありますか？

- 支部活動に参加したことがある方は、23%と少数派。



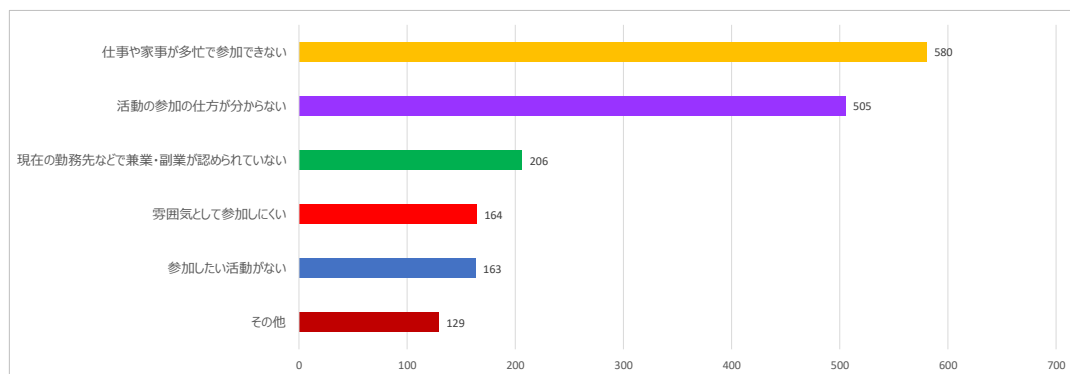
Q12：次の東京支部の活動で参加した経験があるものをお答えください（複数回答可）。

- 参加した活動は、「傾聴ボランティアなど社会貢献活動」「試験係員」が多数ではあるものの、各々1割にも満たない。



Q13：東京支部の活動に参加したことはない。と答えた方への質問です。 東京支部の活動に参加していない理由をお答えください（複数回答可）。

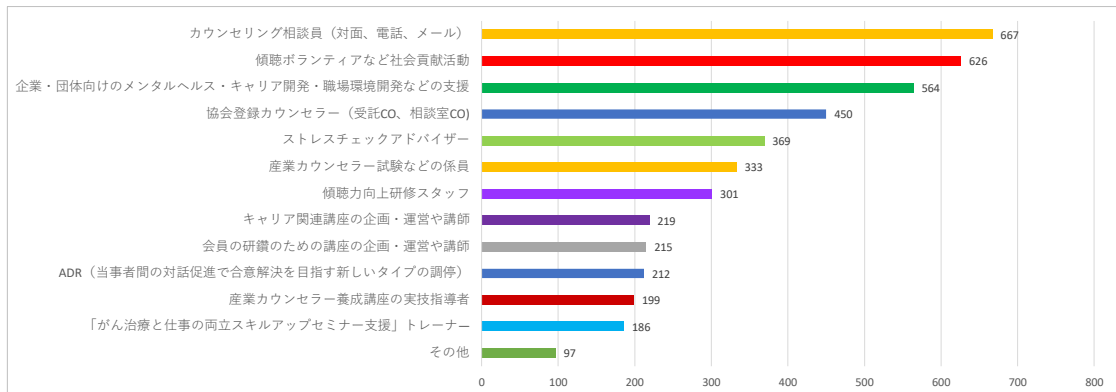
- 支部活動に参加したことがない理由も、（支部イベント同様に）「多忙」が最多だが、約500名（1/3）の方は「参加の仕方が分からない」と回答。
- また1割以上の方は、「勤務先などで兼業・副業が認められない」ことを理由にあげている。



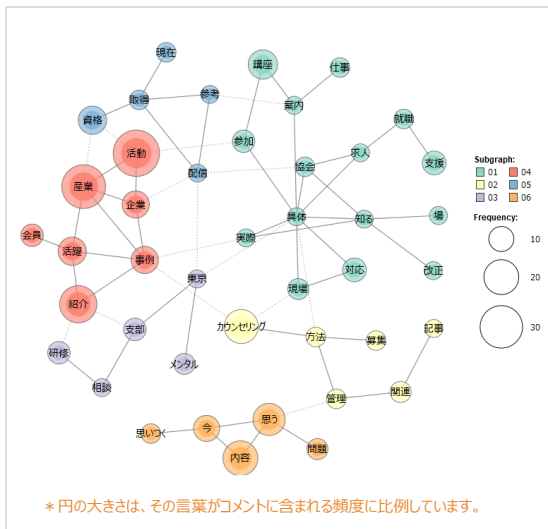
Q14：下記の選択肢の中で、今後参加してみたい東京支部の活動があればお答えください（複数回答可）。

- 今後参加してみたい活動としては、「カウンセリング相談員」「傾聴ボランティアなど社会貢献活動」「企業・団体向けのメンタルヘルス・キャリア開発・職場環境開発などの支援」の順で、各々500～600名（1/3）以上の方が選択。
「協会登録カウンセラー」も、450名/29%の方が意欲を示した。

- 上記の回答から、産業カウンセラーの資格を活かした支援活動への高い参加意欲がうかがえた。



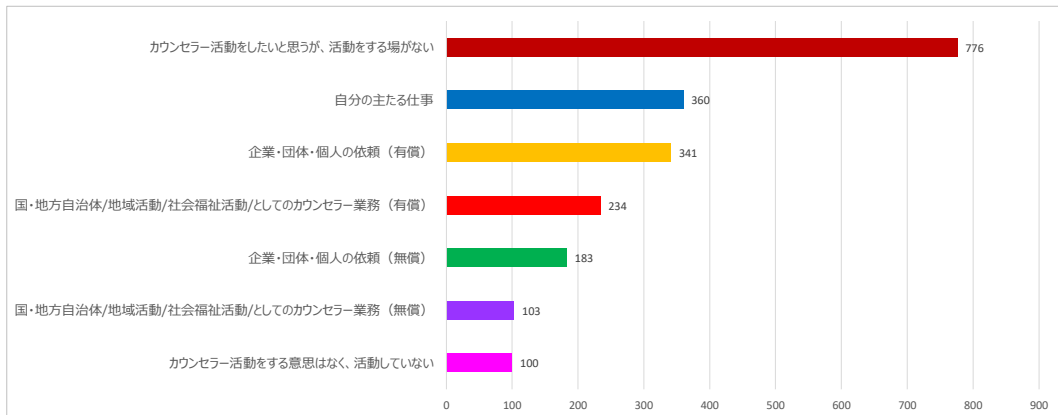
Q15：東京支部「いまここTokyoメールニュース」で配信して欲しい内容をお聞かせください。



- 全体的な頻出語は「産業」「活動」「紹介」。
「活動」「紹介」が用いられたコメントを見ていくと、支部の活動内容の紹介を求める声や、会員の活躍や事例の紹介を求める声が多くあった。
- 他に特徴的なワードは「就職」「改正」。
「就職」は「求人」「支援」とつながって使用されることが多く、就職支援に関する情報の要望、「改正」は「知る」とつながり、法令の改正情報の掲載を求める声があった。

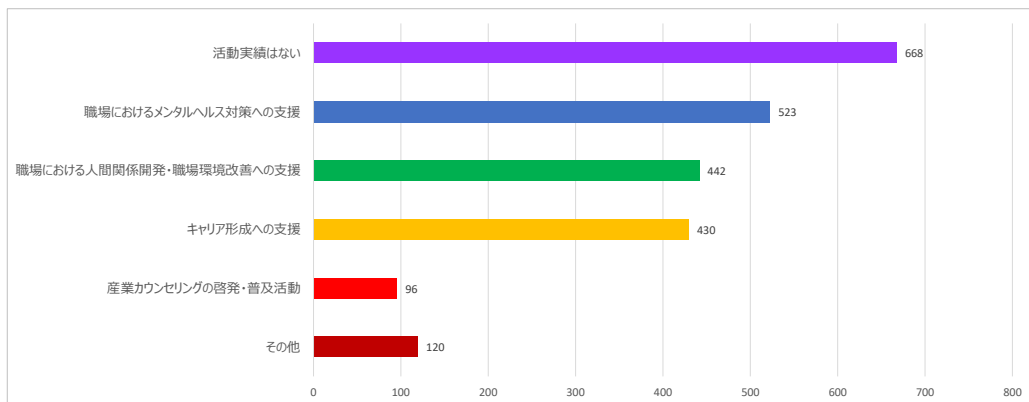
Q16：産業カウンセラーとして活動されている場合は、その内容を、活動をしていない場合は、活動意思をお答えください（複数回答可）。

- 産業カウンセラーとして活動をされている方は680名/44%。そのうち、約半数（680名中360名）が、ご自身の主たる仕事とされている。
- 一方、回答者中776名/約50%は、「カウンセラー活動の意向はありつつも、その機会がない」と回答している。



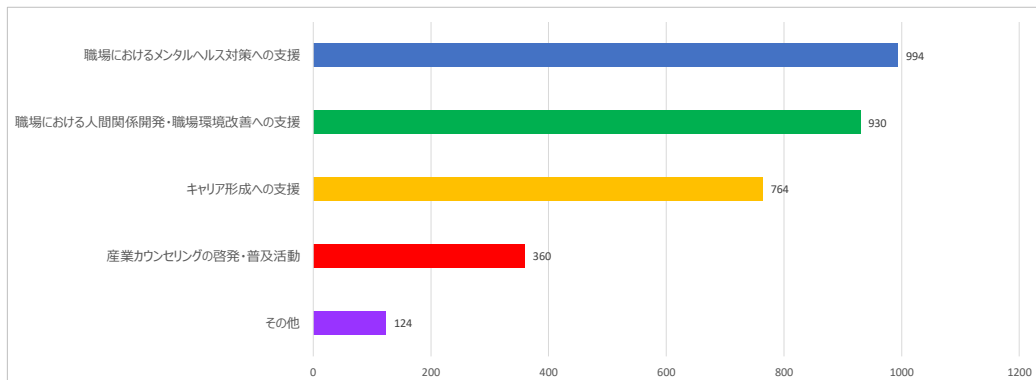
Q17：産業カウンセラーとしての活動実績がある場合は、その領域をお答えください（複数回答可）。

- 活動実績のある方の中では、「職場におけるメンタルヘルス対策への支援」が最多であるものの、いわゆる3つの支援活動領域が、各々約400名～500名/30%程度で均衡している。
- 一方、活動実績がない方々の人数（668名）は、各領域の回答者数を上回っている。



Q18：産業カウンセラーとして今後活躍したい領域をお答えください（複数回答可）。

- 今後活動したい領域として、「職場におけるメンタルヘルス対策への支援」、「職場における人間関係開発・職場環境改善への支援」を、各900名を超える方が選択。「キャリア開発への支援」も、764名と約半数の方が選択している。
- 上記回答から、産業カウンセラーの専門知識を活かした支援活動への高い参加意欲がうかがえる。



ご回答に協力いただいた皆様、お忙しい中ありがとうございました。

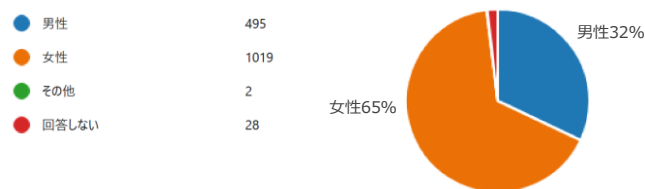
いただいた貴重なご意見を、今後の支部活動の充実に活かしてまいります。

添付資料 1 : 回答者のプロフィール

Q19-21に見られるように、今回の回答者の性別、年齢、会員歴などの構成は、東京支部会員全体の構成と大きな相違はなく、アンケートへの協力する/しないという意向の問題を除けば、母集団の傾向を適切に反映していると推察できると考えられる。

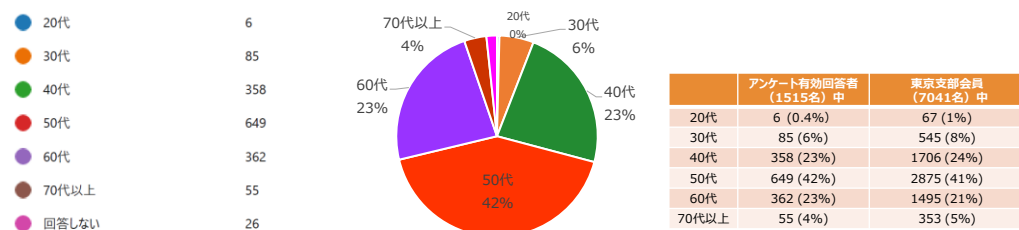
Q19 : あなたの性別は？

- 回答者の中で、女性は65%、男性が32%。東京支部会員の構成は、2022年7月時点7041名に対し、女性4781名（68%）、男性2260名（32%）と、ほぼ一致している。



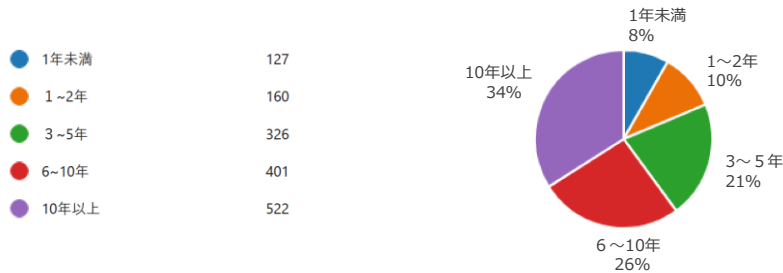
Q20 : あなたの年代は？

- 回答者の年齢構成は、50代を中心とした正規分布となっており、こちらも東京支部会員の構成と、ほぼ一致している。



Q21：あなたの協会会員歴は？

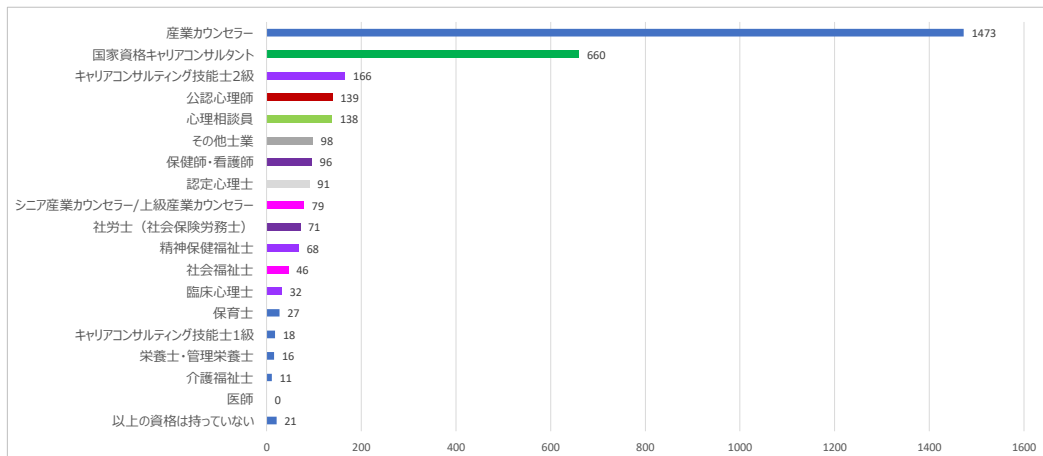
- 会員歴は、10年以上が最多で、約1/3。
- こちらも東京支部会員の構成と、ほぼ一致している。



	アンケート有効回答者 (1536名) 中	東京支部会員 (7041名) 中
1年未満	127 (8%)	265 (4%)
1～2年	160 (10%)	980 (14%)
3～5年	326 (21%)	1282 (18%)
6～10年	401 (26%)	1774 (25%)
10年以上	522 (34%)	2740 (39%)

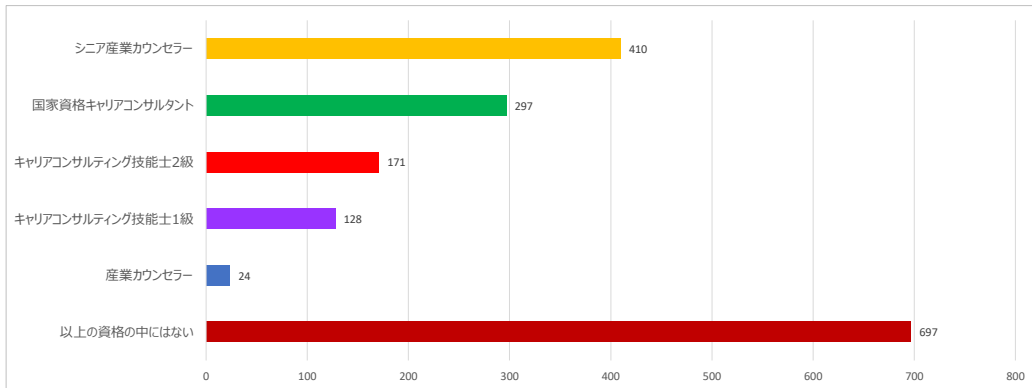
Q22：現在の保有されている資格をお答えください。

- 保有資格では、「産業カウンセラー」がもちろん最多であるが、「キャリアコンサルタント」の保有者も、660名/42%を超え、「キャリアコンサルティング技能士2級・1級」と単純合算すると、CC関連で50%を超える。
- 「公認心理師」「心理相談員」の保有者は、100名を超え、「シニア産業カウンセラー」を上回っている。



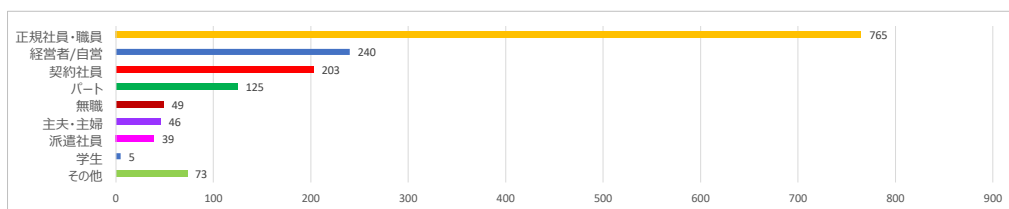
Q23：次の選択肢の中に、今後取得したい資格があったら、お答えください。

- 今後の取得意欲では、「シニア産業カウンセラー」が最多ではあるが、選択肢を示した（産業カウンセラー、CC関連）以外の資格を考える方が、さらに上回っている。



Q24：あなたの主たる立場（就労形態など）をお答えください。

- 就労形態では、約半数の方が、「正規社員・職員」。「経営者・自営」と「契約社員」が、ほぼ同数の15%程度で続く。



Q25：有業の場合は、主な業務についてお答えください。

- 主な業務としては、「カウンセラー」「人事労務」「一般事務」の順（12～17%）。

- 「医療・看護」「福祉」領域や「営業・販売」の方も、5%程度。

